

# 水曜通信 30

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2020年  
2月

## 第30回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2020年2月19日（水） 18:30-19:00



説教：松本 宣郎（本院院長・理事長）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：J.G.ヴァルター「われらに救い来たり」

讃美歌：48番「しずけきゆうべの」

聖 書：ヨハネによる福音書 15章11-17節

讃美歌：187番「主よ、いのちの」

説 教：「私があなた方を愛したように」

頌 栄：541番「ちちみこみたまの」

後 奏：J.S.バッハ「われらに救い来たり」BWV638

後奏の後、東北学院教職員聖歌隊による合唱での賛美を行ないます。

次回第31回水曜礼拝は4月15日です。

## 第29回 水曜礼拝報告（説教：原田浩司、奏楽：小野なおみ）

2020年1月15日（水）18:30-19:00

讃美歌：120番「いざうたえ友よ」

聖書：エフェソの信徒への手紙 5章6-20節

讃美歌：411番「すべしらす神よ」

説教：「キリストの光」

頌栄：544番「あまつみたみも」

### 【説教要旨】

この手紙の後半で人間の生き方が問い質される。古い生き方から新しい生き方への転換が勧められる。新しい生き方への転換を問う上でパウロが目にするのは言葉だ。福音書記者ヨハネは1章で「はじめに言があった。…言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」とクリスマスの出来事を印象深く表現した。神の言は世を照らす光としてこの世界に受肉した。神の言が受肉する時、全てが変わる。礼拝を通して神の言葉が聞く者一人ひとりに受肉した時、人は新しく生まれ変わる。パウロは「光の子として歩みなさい…賢い者として歩みなさい」と勧める。この年も神の言葉を自分自身の体に受肉し、神の前に遜る賢さを具えた一人ひとりでありたい。（原田浩司）

前奏：J.S.バッハ「高きにいます神にのみ栄光あれ」BWV662

後奏：J.S.バッハ「高きにいます神にのみ栄光あれ」BWV715

前奏、後奏の元になっているコラールは、ドイツミサのためのグロリアとして1520年代に作られました。前奏は《ライプツィヒコラール集》の一曲であり、多くのオルガニストのレパートリーとなっています。（小野なおみ）

礼拝とその後の19時00分から30分までのグリークラブOB合唱団による賛美に49名の市民が参加されました。

### 礼拝後、グリークラブOB合唱団による賛美

- |                                |            |  |
|--------------------------------|------------|--|
| 1. Ave Verum Corpus            | Mozart作曲   | V.C.Searle 編曲                            |
| 2. いつくしみ深き                     | 賛美歌 312番   | 最上巖（東北学院榴ヶ岡高等学校教諭）編曲                     |
| 3. 球根の中には                      | 賛美歌21 575番 | 同上 編曲                                    |
| 4. Swing Low, sweet chariot    |            | V.C.Searle 編曲 ※ラグビーイングランド<br>代表応援歌としても有名 |
| 5. Nobody knows de trubble     |            | 同上 編曲                                    |
| 6. Were you there ?            |            | 同上 編曲                                    |
| 7. Oh Lord, Ah got mo' trubble |            | 同上 編曲                                    |
| 8. Deep River                  |            | 同上 編曲                                    |

私達、東北学院大学グリークラブOB合唱団は、合唱が大好きな達ばかりです。学生時代から合唱好きのみんなが、時代が変わっても変わらぬ想いの絆で50年以上、現在も続けているという不思議？な団体かも知れません。

宗教曲や黒人霊歌といったポピュラー音楽ではありませんから、来場の方々には馴染みもなく不評だったかもしれません。でも私達は、少ない練習ながら一生懸命に歌い、少しでも感銘を得て頂けるものと確信している次第です。

（グリークラブOB会・OB合唱団 竹花秀昭）



## 恩師 Victor C. Searle先生について

日本名：藤瀬 美久（ふじせ よしひさ）。

作曲・編曲者・パイプオルガン奏者・指揮者。

1929年：アメリカ オクラホマ州生まれ

1948年：来日

1954年：東北学院大学専任音楽教師、同グリークラブの指導、指揮者となる。

1957年：ウエストミンスター合唱大学J.F.ウイリアムソン学長の招きで帰国一年後再度来日。

1959年以後、東京に在住し東フィル、二期会等と共演。専門楽器はパイプオルガン。又、三越日本橋本店のパイプオルガンを修復。専属現役オルガニストとして毎月、演奏。

2012年11月22日帰天（享年83歳）。



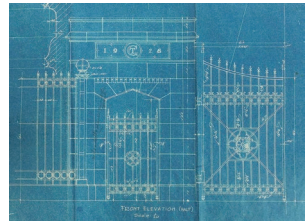
東京在住時代は、合唱、オペラ、交響楽団、ブラスバンド等の指揮者として1000回を超える演奏会を行っていました。更に、教育者として武蔵野音楽大学・東京上野学園・昭和音楽大で教鞭をとり、日大芸術学部でパイプオルガンを指導と、多岐にわたり音楽関係に携わっていました。1970年代の我々学生時代には、東北学院大学グリークラブ合唱団との絆は深く、定期演奏会、北海道・東北の演奏旅行等にも同行していただきました。その後も東北学院大学グリークラブOB合唱団との絆は続き、1998年以来、東京OB合唱団の常任指揮者として、11年間、合唱指導を務めて下さいました。時折、来仙し東京OB合唱団との合同演奏会も実現出来ました。それ以来、そしてこれからも私達OB会会員は先生の功績に感謝しつつ、大事に歌い続けて参ります。  
(竹花秀昭)

## 一 建築との対話：礼拝堂建築調査の現場から (7) 一

重厚で、風格ある佇まい。しかし文化財に登録されていない本学の重要な歴史的建造物の一つに「正門」があります。

今回、礼拝堂の建設に際して建築家モーガンが作成した図面を整理する中で、土樋キャンパスのマスタープランとともに、2種類（2案）の正門の図面が発見されました。そのうちの1案は現在の姿と非常によく似たものでした。これにより、正門が、本館・礼拝堂・大学院棟（旧図書館）および正面広場と一体不可分のものとして、当初からモーガンによってデザインされたものであることが証明されました。また、史資料センターに残る古写真を精査した結果、これが本館（大正15年）に次いで大正15年中に竣工したものであることも確認できました。一方、研究室の学生達と実施した調査からは、長い年月の中で、部分的に幾度かの修理または改変を経ていることも見えてきました。

さて、正門の歴史的価値はどのように説明できるでしょうか。現在、当研究室では、調査結果の分析と考察を進めています。  
(崎山俊雄)



土樋キャンパス正門の青焼き図面  
(原図の一部をトリミング)



実測調査の様子

## — ランカスター神学校での発見 (15) —

### 「卒業生3人が牧師として仕えた日系人教会」

ロスアンゼルスを発つ前日、「新たな発見」がありました。昨年の調査の帰途も郊外のバサディナ市の友人宅に滞在したことから、「事前に父が牧師をしていたバサディナの日系人教会を探してほしい」という依頼が出村彰名誉教授からあり、友人に関係資料を送っていました。

出村氏のご尊父は、戦後第4代院長をされた出村剛氏（1907年専門部文科卒）ですが、一時期（1915-1917年）バサディナで牧師をされていました。調べてみるとこの同じ教会に田島堅固氏（1905年普通科卒）と菊地賢治氏（1923年神学部卒）も牧師として着任していることがわかりました。

当初は市内中心部にあったこの教会は、戦時中の日系人の強制収容などもあって、何度も移転を繰り返しており、友人も苦労したようでしたが、ついに郊外のアルタデナに見つけることができました。会堂の入り口には、60周年を記念して作製された創立時の会員名を刻んだ銘板が掲げられており、これが文献と一致したことが決め手となりました。

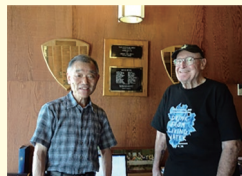
戦前の『東北学院時報』には、海外で活躍する同窓生の記事がよく掲載されていますが、これらの同窓生の動向を調査することも今後の課題と思われまます。（東北学院史資料センター日野哲）



アルタデナ第一長老教会



会堂入口のプレート



友人ビル・ショー氏と共に

## 研究ブランディング事業共催公開講演会のお知らせ 「いま、鈴木義男から考える」

日 時：2020年3月7日（土）13：30～16：10  
会 場：土樋キャンパス ホーイ記念館ホール

講 師

- 仁昌寺 正一（本学経済学部教授・東北学院史資料センター調査研究員）  
弁護士時代の鈴木義男 — 平和憲法への助走 —
- 松谷 基和（本学教養学部准教授・東北学院史資料センター調査研究員）  
人権派弁護士として

事前見学会 — 先着25名・申込不要 —

当日は、講演に先立ちラーハウザー記念東北学院礼拝堂及び東北学院史資料センターの見学会を実施します。

時 間：12：15～12：45

集合場所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂



文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
第30号

2020年2月6日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/